

ノートの活用方法を考える
- マイノートブックをつくろう -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

今、横浜の方でアフリカに関する会議がたくさん開かれています。近い中国、インドだけでなく、我々もアフリカをどんなふう支援したらいいかについて、いい勉強になりますので、ぜひご関心をもっていただければありがたいです。

2. ノートの活用法を考える

今日は、ノートの取り方を皆さんとお考えしたいと思います。特に授業中のノートの取り方について考えます。授業中のノートはどんなふうにとったらいいかという、大テーマを今日は考えます。

(1) 学校でも、学習塾でも、予備校でも、いろんな勉強会でも、先生の話す内容を一言も聞きもらさないようにして、一言も聞きもらさずに何から何までノートに取ること、聞いたことを全てノートに取ることが、ノートを取る上で一番大事かなと思います。先生がお話したことを全てノートに取ることが大事です。それから、先生が黒板にお書きになったことを全てノートに取ることがもちろん大事です。先生がお話になったこと、お書きになったこと、全てノートに取ることが大事である。この授業を受けるときの基本を忘れないでくださいね。

なぜ先生の言うことの全てを、黒板に書いてあることの全てをノートに取るのか。人間は見たり聞いたりしたことの大半を忘れてしまうからです。ですから、全てをノートに記録しておくことは大変大事かなと思います。そこに、授業の日付、時間、その日のテーマ、学習項目、教科書の該当ページなどを必ず書く。何のためにノートを取るか。手がくたびれてしまうのではないかというお話はあります。授業中のノートの活用の仕方が大事です。授業中に取ったノートは、自分の受けた授業の全記録ですので、授業の後に上手に活用すれば皆様の人生の宝物になります。ノートをどのように活用したらよいかを絶えず考えることが大事です。もしかしたら、ノートの活かし方、活用の仕方は、勉強の仕方の中で一番大事かもしれません。

この「開倫塾の時間」では、ずっと勉強の仕方をお話しています。勉強の仕方の中で一番大事なことの1つは、ノートの取り方かもしれません。

(2) では、どんなふうにより活用したらいいのか。できれば授業直後、または、授業を終わってしばらくしてから、一人静かにノートをもう一度読み直す。これが大事です。気持ちを落ち着かせて、もう一度授業を受けているような気持ちで、ゆっくりとゆっくりとノートを読み返して下さい。もしできれば、声を出してゆっくり読むと、もっといいと思います。音読ですね。ノートも教科書も他の本と同じように何回も、何回も音読されることをお勧めします。

先生の授業で「うんなるほど」というようによくわかった、腑に落ちた、これを私は「理解す

る」と言っています。先生の授業でよく「理解」できたことが、もっともっとノートをゆっくり読むと、特に音読をすると、もっともっとよくわかるようになります。もう一度ノートを読み直すと、よくわかったつもりのことでも、もっともっと深くわかるようになります。

- (3)それから、もう少し大事なのは、ノートをゆっくり読み直しながら、「ノートを整理すること」です。大事なところに、自分のお気に入りの印を付けたりとか、項目毎に後で読みやすいように番号を付けたりとか、枠(わく)でくくったりすることも大事です。

何のために「ノート整理」はするか。ノート整理は、授業中に取ったノートを自分自身が後で読みやすい、勉強しやすい本に変身させることを目的とします。私はこれを皆さんにお勧めしたい。

- (4)「ノート」のことを、英語では「ノートブック」と言います。なぜこんなことを言いますかという、英語の「ノート」には動詞として使うときには「書きとどめる」という意味があります。これにブックがつくと、書きとどめておいたものを本のように大事に活用するからだと思います。イギリスをはじめヨーロッパでは、大学生はもちろん小学生も中学生も高校生も、あらゆる教育の場で強調されていることは、学校でよく勉強した人は、授業などで勉強した内容は全て「ノートブック」に書きとめて、先程お話したように、授業後に自分なりにその内容をノートに整理して、必要なことをつけ加えながら、自分専用の「ノートブック」、つまり「本」を作って、繰り返し繰り返し自分で作った「ノートブック」を活用して勉強する。これがヨーロッパの賢い人の勉強法です。

小学校のときに作ったノートやノートブック、中学校で作ったノートやノートブック、高校で作ったノートやノートブックに、賢い人ほど自分の力でそれにいろいろなことをつけ加えながら、大学生になっても、社会に出てもそれを活用して、手放さない。一生涯、小学校の「ノートブック」、中学校の「ノートブック」、高校生の「ノートブック」をもっていて、宝物のように大切に、大切に活用し続ける。こんなふうなことが、賢い人の勉強法だと言われています。

3. おわりに

私は、自分で作ったノートブックを第2の教科書といいますか、自分の作った本として一生にわたって活用することを、皆様にも強くお勧めします。できればこのような意味で、これからはノートと呼ばずにマイノートブックというようにお呼びになって活用していただければと思います。ただ、あまり完璧なノート作りはなさらないほうがいいと思います。勉強する目的がノート作りやノートブック作りになってしまえば、ストレスになってしまいます。これでは本末転倒です。どうか人生の楽しみとして、また、自分の「宝物」づくりとして、マイノートブックづくりを一生かけてやってくださいね。

- 2008年8月5日加筆 -